10. 道 徳 科 論 文

自ら学び続ける授業の創造Ⅲ

よりよい生き方を学び続ける道徳授業の創造Ⅲ
～学びのよさを実感し，よりよく生きる意欲を高める学習指導～

Ⅰ　研究の立場…… 123
　1　研究のあゆみ…… 123
　2　本年度研究の方向…… 124
Ⅱ　本年度の研究内容…… 125
　1　学びのよさを実感するとは…… 125
　2　学びのよさを実感し，よりよく生きる意欲を高める学習指導とは… 125
　3　学びのよさを実感し，よりよく生きる意欲を高める学習指導の具体化 126
　　(1)　学びのよさを実感し，よりよく生きる意欲を高める学習内容…… 126
　　(2)　学びのよさを実感し，よりよく生きる意欲を高める指導方法…… 127
Ⅲ　授業プラン例…… 129
　主題名「ふるさとのために」資料名「駅を守るおじいさん」…… 129
Ⅳ　研究の成果と課題…… 133
　1　研究の成果…… 133
　2　研究の課題…… 133

Ⅰ　研究の立場

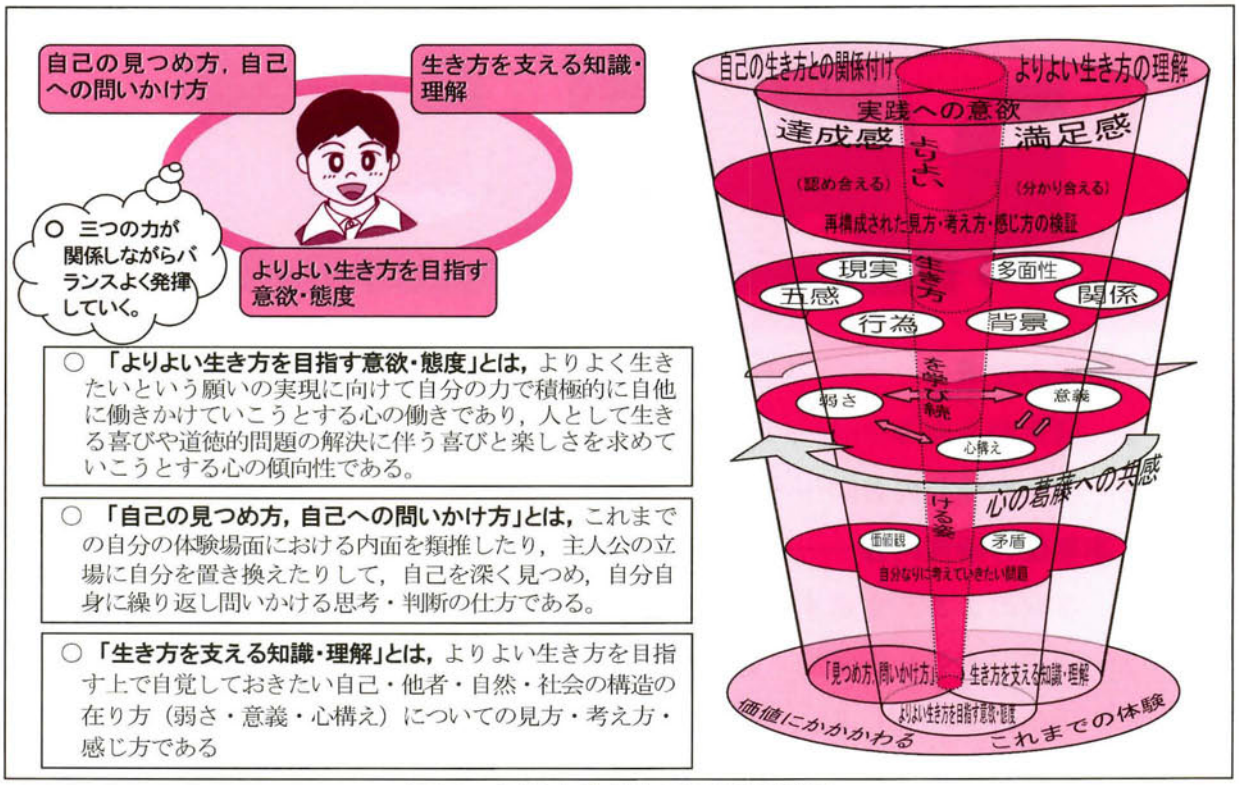
1　研究の歩み

平成15年から平成17年まで，「心の葛藤を乗り越える楽しさや喜びを味わう道徳授業の創造」の研究主題を設定し，研究実践を積み重ねてきた。その中で，「どのように自己を見つめ，自己に問いかけて価値観を身に付けたか」というプロセスを重視し，心の葛藤への共感を中心として授業創造を行ってきた。

しかし，子どもたちが道徳の時間に学ぶことを，自分のこととして受け止めて意欲的に学ぶ姿が表われたかという視点で見るとまだ改善の余地があるととらえた。そこで，子どもたちがこれからの自分の生き方に自信と夢や希望をもてるような学びがいのある授業を目指し，平成18年度から「よりよい生き方を学び続ける道徳授業の創造」という研究主題を設定し実践に取り組んできた。

私たちは，これまでの２年間の研究で，目指す子どもの姿，そして目指す子どもの姿を具現化するための学習内容設定の研究を進めてきた。

１年次は，内容項目「尊敬・感謝」の学習において，**「よりよい生き方を目指す意欲・態度」「自己の見つめ方，自己への問いかけ方」「生き方を支える知識・理解」の三つの培う力の発揮の様子から，目指す子どもの姿や授業像**を明らかにした。



【図１　目指す子どもの姿と授業像】

２年次は，内容項目「自然愛，動植物愛護」「誠実・明朗」の学習において，**子どもの学びの分析から培う力を明らかにした学習内容の在り方**を明らかにしてきた。この学習内容を，見方・考え方・感じ方の深まりや広がりを実感する学習内容とし，基本的な学習内容に，具体的な形（行為）に表す学習内容，同内容項目における全ての授業とのつながりを実感することができる学習内容等を付加してきた。その結果，子どもたちは，これまでの自分の見方・考え方・感じ方が，学習を通して深まったり広がったりしていくことを実感しながら学び続けることができるようになってきた。

2　本年度研究の方向

道徳の時間における学びは，一人一人の生活から始まり，一人一人の生活へと返っていくものである。その間に，多様な見方・考え方・感じ方からの学びがあって，よりよい生き方を学ぶことになり，そこによさを感じてこそ，自分の生き方をよりよいものにしていこうとする意欲が高まるものである。

これまでの授業実践を振り返ってみると，子どもたちは，三つの培う力を発揮し，見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりしている。しかし，見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりしただけで満足し，自分の生き方をよりよいものにしていこうとしているかという視点からみるとその姿は十分ではないと感じている。また，継続研究であることから，実践していない内容項目についても学習内容の設定をしていくことや指導方法も充実させていくことも必要であるととらえている。

以上のことから，私たちは，三つの培う力をさらに発揮させるためには，よりよく生きる意欲を高めることが大切であると考えた。そして，そのためには，道徳の時間の学びのよさを実感させなければならないととらえた。なぜなら，**学びのよさを実感させることを通して，子どもたちが，道徳の時間に学ぶことをもっと自分のこととしてとらえ，生き方について考え，よりよく生きようとする意欲を高めることにつながる**と考えたからである。

さらに，平成20年に答申として出された新学習指導要領の考え方も踏まえて，授業はどうあればよいかを改めて見直してみた。新学習指導要領では，道徳の時間は，自己の生き方及びその基盤となる道徳的価値観の形成を図る指導を徹底すること，形骸化された授業だけにとどまらず，より効果的な指導を行うために多様な指導方法を実践していくことなどが大切だとされている。このように新学習指導要領の考え方からも，授業を充実させていくためには，学習内容を見直し，指導方法を充実させていく必要があるといえる。

これらの考えを基に，私たちは，授業を見直し，子どもに学びのよさを実感させ，自分の生き方をよりよいものにしていきたいという意欲を高めていくような授業創造に取り組むことが大切であると考え，以下のテーマを設定し研究を進めていくことにした。

よりよい生き方を学び続ける道徳授業の創造Ⅲ
～学びのよさを実感し，よりよく生きる意欲を高める学習指導～

また，本校は表１が示すように，内容項目の特性の分析から内容項目分類表を設定している。研究領域としての絞り込みについては，この分類表を生かして行ってきた。

本研究の１年次には，「主に価値の自覚を図る項目」の中から，他者とのかかわりに関する内容項目「尊敬・感謝」を，２年次には，「主に問題意識をもたせ，価値の自覚を図る項目」の中から，自己とのかかわりに関する内容項目「誠実・明朗」，対自然・崇高なものとのかかわりに関する内容項目「自然愛，動植物愛護」に絞り込み研究に取り組んできた。本年度は，この領域表の中でまだ実践していない「主に真・善・美を感覚的にとらえる項目」の中から，集団・社会とのかかわりに関する内容項目「郷土愛」に焦点化していくことにした。

【表１　研究領域の設定】前研究　1年次　2年次　3年次

観点／4つの視点	主に問題意識をもたせ，価値の自覚を図る項目	主に真・善・美を感覚的にとらえる項目	主に価値の自覚を図る項目
対自己	誠実・明朗，節度・節制，自立など		向上心，個性の伸長 創意・進取
対他者	思いやり・親切 礼儀など		尊敬・感謝
対自然・崇高なもの	自然愛，動植物愛護	生命尊重 敬けん	
対集団・社会	役割と責任の自覚 公徳心，規則の尊重など	家族愛，愛校心，郷土愛，愛国心など	

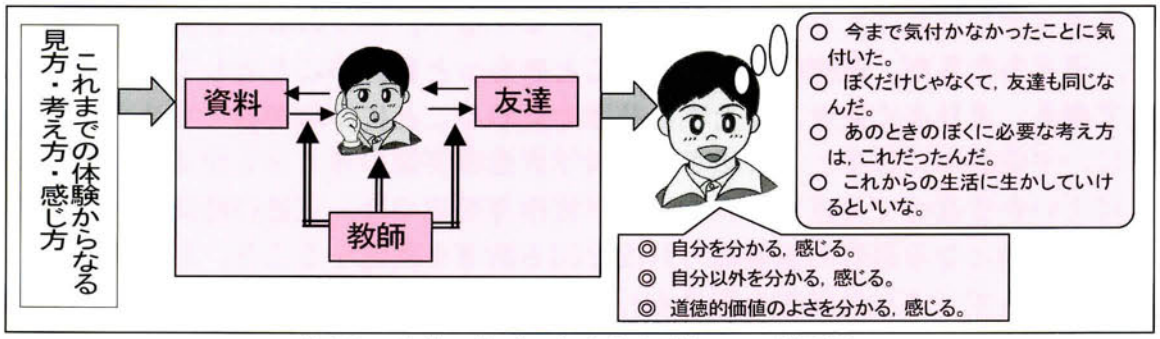
Ⅱ　本年度の研究内容

1　学びのよさを実感するとは

道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方への子どもたちの学びは，分かっていることからスタートする。例えば，「思いやり・親切」が大切なことを，生き方を支える知識・理解として子どもたちは分かっているのである。しかし，「大切なのはどうしてか」という問いに対して，一人一人の見方・考え方・感じ方は，同じであったり違ったりしていることに気付く。この気付きが，子どもの問題意識へとつながり，これまでの体験と重ねたり関係付けたりしながら，道徳的価値への見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりしていく。

この気付きは，自分以外との学びの中で得られるものである。そして，その**学びが，自分の生き方と関係していることやこれからの自分の生き方をよりよいものにすると希望をもてることで，学びのよさを実感することになる。**

子どもたちは，学びのよさの実感を，**資料とのかかわり，友達とのかかわり，教師とのかかわりの中で感じながら，自分の学びをつくっていく**のである。



【図２　自分の学びのよさを実感していく過程】

学びのよさを実感するとは，自分の生き方に必要なこととして問題を見付け，自分なりの考えをもち，お互いの考えを大切にした学びの中で，見方・考え方・感じ方の深まりや広がりを実感し，これからの自分の生き方とのかかわりを自覚することである。

2　学びのよさを実感し，よりよく生きる意欲を高める学習指導とは

子どもたちは，三つの培う力（P123図１参照）を発揮させるために，道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりし，学んだ見方等に照らして自分を見つめることで，よりよく生きる意欲を高めていく。よりよく生きる意欲を高めるためには，**学習内容が子どもたちにとって，生き方を考える上で価値あるものでなければならない。そして学ぶ価値を感じさせるためには，子どもたちに「自分の生き方とつながりがある。」という感覚（必要感）や「これからの生き方をよりよいものにしていくきっかけとなる。」という感覚（有用感）を感じさせることが大切である**と考えた。

また，学習内容をよりよく学び取らせていくには，子どもたちの学びを充実させていかなければならない。そのために，教師は，子どもの学習活動や場等を工夫し，より有効な指導方法を設定していく必要がある。さらに，子どもの学びを充実させていくために設定した学習活動や場等が，子どもたちにとって意味あるものでなければならないと考える。そこで，意味あるものにするためには，**子どもたちが，「ぼくも同じだ。」「確かにそうだ。」と受け止め合う感覚（受容感），「気付いたよ。」「もっと話し合いたい。」という感覚（効力感）を基に設定する指導方法が大切である**と考えた。

また，学びは子どもたちのものであることから，子どもたち自身にも，学びを常に振り返る力を身に付けさせ，高めていくことも必要であると考える。

学びのよさを実感し，よりよく生きる意欲を高める学習指導とは，目指す子どもの姿を表出させるために，次の二つの観点から学習内容と指導方法を設定し授業を行っていくことであると設定した。

① 自分の生き方と関係付ける必要感を感じているか，これから目指したい生き方を支える有用感を感じているかという視点から見直した学習内容

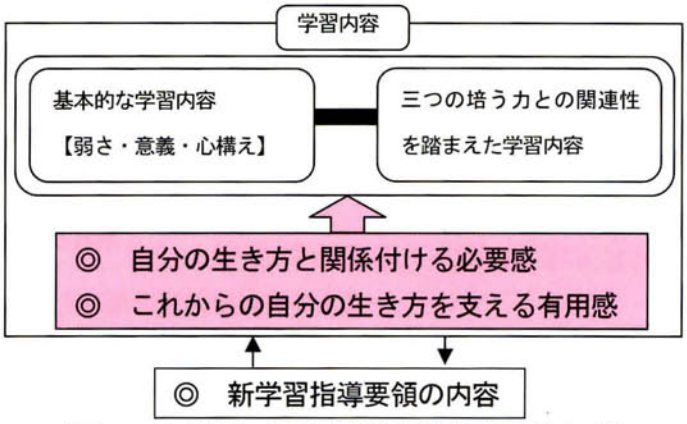
② 学習内容を学び取らせるために，学びの中でお互いの見方・考え方・感じ方を受け止め合うことに喜びを感じる受容感，生き方を支える見方等を深めたり広げたりできる効力感を感じているかという視点から設定する指導方法

【図３　学びのよさを実感し，よりよく生きる意欲を高める学習指導】

3　学びのよさを実感し，よりよく生きる意欲を高める学習指導の具体化

(1)　学びのよさを実感し，よりよく生きる意欲を高める学習内容

これまでの研究で明らかにしてきた，見方・考え方・感じ方の深まりや広がりを実感する学習内容の考え方を生かし，子どもたちが自分たちが学ぶ内容をどのように感じているか検討し，設定した。



【図４　本研究における学習内容設定の考え方】

まず，子どもたちが，内容項目の価値に対して，どのように弱さ，意義，心構えを感じているかを調査する。調査結果を分析し，強く感じる弱さと意識されていない意義，心構えを明らかにし，基本的な学習内容における重点として設定する。

次に，三つ培う力の発揮の状況をこれまでの実践から分析する。そこで，十分に発揮されていない培う力を明らかにし，その力を発揮させるための学習内容を設定する。

さらに，その両面から設定された学習内容に対して，**自分の生き方と関係付ける必要感，これからの生き方を支えるための有用感を，子どもたちがどのように感じているか分析し，その感覚をよりよく感じさせことができる学習内容**としていく。

また，このような学習内容を設定することで，子どもたちは道徳的価値に対する見方等が深まったり広がったりしたことを実感することになり，新学習指導要領の改善の方向として重視する「道徳的価値観の形成を確かに図る」ことにもつながると考える。

(2) 学びのよさを実感し，よりよく生きる意欲を高める指導方法

子どもの学びを想定するとき，**子どもが学習内容をどのように学び，資料，友達にどのようなかかわりをしていけばよいかを検討すること**が大切である。そして，実際に授業中に見られる子どもの学ぶ姿に対して，評価しながら具体的に働きかけていかなければならない。

また，子どもに働きかける際に，子どもができたかできないかで評価して働きかけるのではなく，共感的にその状態を見取り，働きかけることが大切である。しかし，共感的な見取りを重視するあまり，子どもだけに学びを任せてしまっては，ねらいに迫ることができない。そこで教師は，時として積極的に働きかけることも必要である。その時は，子どもの意識に合わせて多様な働きかけをもって気付かせていく姿勢も大切にする。

このような考えを基に教師が子どもに働きかけることによって，**「自分の考えも，友達の考えにも，人の生き方を考える上でいいところがあるなあ」という受容感や「自分のこれからの生き方に生かしていこう」という効力感**を感じながら，よりよく生きる意欲を高め学び続けることができる。

つまり，**子どもに学びのよさを実感させ，よりよく生きる意欲を高めるためには，学習内容のよさを実感させることはもちろんのこと，自分の見方・考え方・感じ方が何とのかかわりの中で深まったり広がったりしたかを，教師の共感的な見取りの下で，子どもたちに学びのよさとして感じさせる指導方法が必要**となる。

以上述べてきた学びのよさを実感し，よりよく生きる意欲を高める指導方法を具体化するための表２に示すように視点を設定し指導方法の基本的な考え方とした。

さらに，基本的な考え方を授業に生かす内容としていくために，目指す子どもの姿と照らし合わせて指導方法の要件を以下のように設定した。

【表２　指導方法の基本的な考え方】

指導方法の視点	視点の基本的な考え方
学習過程	・　これまでの自分の生き方とこれからの自分の生き方とのつながりを重視した過程
学習活動	・　道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方を，深めたり広げたりすることができる活動
学習形態 学習の場	・　自分なりの問題を基に，弱さ，意義，心構えを考え，話し合うことができる形態・場
教師の具体的な働きかけ	・　学びに共感しながら，道徳的価値のもつよさに気付かせるような，待つ，問う，方向付ける働きかけ
評価方法	・　子どもの姿を共感的に見取り，よりよく生きる意欲を高めていくと期待できる姿としてとらえていく方法

【表３　指導方法の要件と基本的な指導方法の構想】

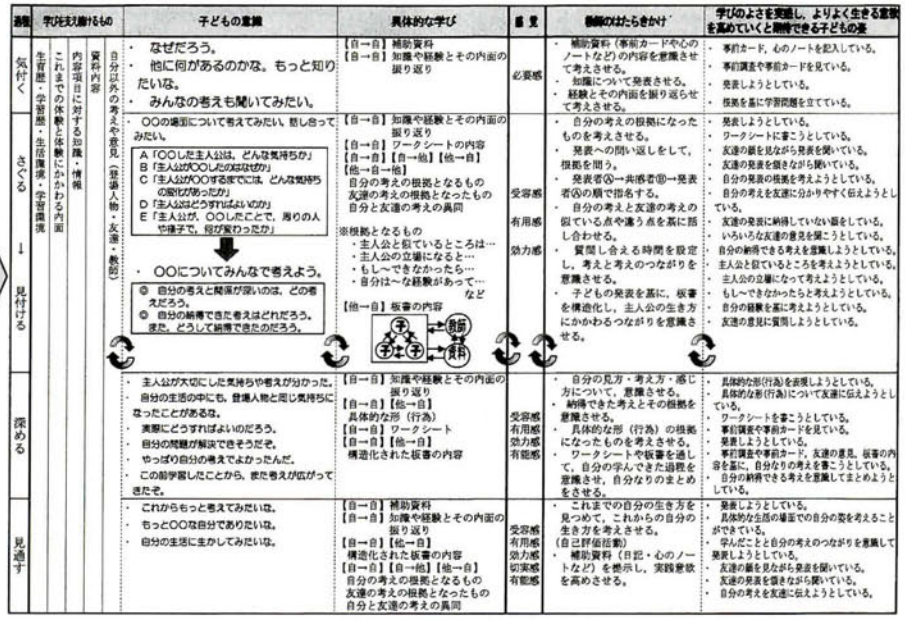
指導方法の要件

○　子どもたちの生き方すべてを受容できる。

○　子どもの意識（体験の内容との関連）と学びのつながりを明らかにできる。

○　学びのよさとして感じることができる感覚を明らかにし，よりよく生きる意欲を高めることができる。

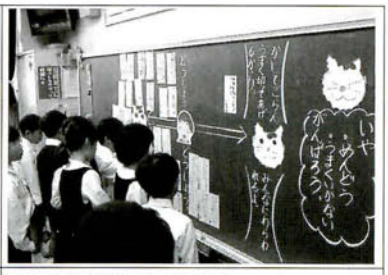
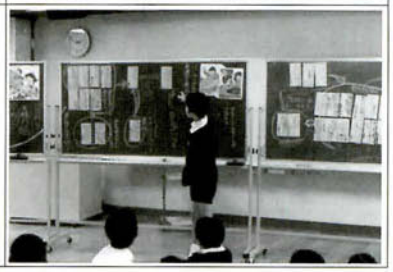
○　共感的な見取りを踏まえ，ねらいに迫ることができる。



過程	学びを支え働けるもの	子どもの意識	具体的な学び	感覚	教師のはたらきかけ	学びのよさを実感し，よりよく生きる意欲を高めていくと期待できる子どもの姿
気付く	自分以外の考えや意見（登場人物・友達・教師） 資料内容 内容項目に対する知識・情報 これまでの体験と体験にかかわる内面 生育歴・学習歴・生活環境・学習環境	・　なぜだろう。 ・　他に何があるのかな。もっと知りたいな。 ・　みんなの考えも聞いてみたい。	【自→自】補助資料 【自→自】知識や経験とその内面の振り返り	必要感	・　補助資料（事前カードや心のノートなど）の内容を意識させて考えさせる。 ・　知識について発表させる。 ・　経験とその内面を振り返らせて考えさせる。	・　事前カード，心のノートを記入している。 ・　事前調査や事前カードを見ている。 ・　発表しようとしている。 ・　根拠を基に学習問題を立てている。
さぐる ↓ 見付ける		・　○○の場面について考えてみたい。話し合ってみたい。 A「○○した主人公は，どんな気持ちか」 B「主人公が○○したのはなぜか」 C「主人公が○○する度ごとには，どんな気持ちの変化があったか」 D「主人公はどうすればよいのか」 E「主人公が，○○したことで，周りの人や様子で，何が変わったか」 ↓ ・　○○についてみんなで考えよう。 ◎　自分の考えと関係が深いのは，どの考えだろう。 ◎　自分の納得できた考えはどれだろう。また，どうして納得できたのだろう。	【自→自】知識や経験とその内面の振り返り 【自→自】ワークシートの内容 【自→自】【自→他】【他→自→他】 自分の考えの根拠となるもの 友達の考えの根拠となったもの 自分と友達の考えの異同 ※根拠となるもの ・主人公と似ているところは… ・主人公の立場になると… ・もしーできなかったら… ・自分は〜な経験があって…　など 【他→自】板書の内容 （子・子・子→教師・資料）	受容感 有用感 効力感	・　自分の考えの根拠になったものを考えさせる。 ・　発表への問い返しをして，根拠を問う。 ・　発表者(A)→共感者(B)→発表者(A)の順で指名する。 ・　自分の考えと友達の考えの似ている点や違う点を基に話し合わせる。 ・　質問し合える時間を設定し，考えと考えのつながりを意識させる。 ・　子どもの発表を基に，板書を構造化し，主人公の生き方にかかわるつながりを意識させる。	・　発表しようとしている。 ・　ワークシートに書こうとしている。 ・　友達の顔を見ながら発表を聞いている。 ・　友達の発表を聞きながら聞いている。 ・　自分の発表の根拠を考えようとしている。 ・　自分の考えを友達に分かりやすく伝えようとしている。 ・　友達の発表に納得していない顔をしている。 ・　いろいろな友達の意見を聞こうとしている。 自分の納得できる考えを意識しようとしている。 ・　主人公と似ているところを考えようとしている。 ・　主人公の立場になって考えようとしている。 ・　もし〜できなかったらと考えようとしている。 ・　自分の経験を基に考えようとしている。 ・　友達の意見に質問しようとしている。
深める		・　主人公が大切にした気持ちや考えが分かった。 ・　自分の生活の中にも，登場人物と同じ気持ちになったことがあるな。 ・　実際にどうすればよいのだろう。 ・　自分の問題が解決できそうだぞ。 ・　やっぱり自分の考えでよかったんだ。 ・　この前学習したことから，また考えが広がってきたぞ。	【自→自】知識や経験とその内面の振り返り 【自→自】【他→自】具体的な形（行為） 【自→自】ワークシート 【自→自】【他→自】構造化された板書の内容	受容感 有用感 効力感 有能感	・　自分の見方・考え方・感じ方について，意識させる。 ・　納得できた考えとその根拠を意識させる。 ・　具体的な形（行為）の根拠になったものを考えさせる。 ・　ワークシートや板書を通して，自分の学んできた過程を意識させ，自分なりのまとめをさせる。	・　具体的な形(行為)を表現しようとしている。 ・　具体的な形(行為)について友達に伝えようとしている。 ・　ワークシートを書こうとしている。 ・　事前調査や事前カードを見ている。 ・　発表しようとしている。 ・　事前調査や事前カード，友達の意見，板書の内容を基に，自分なりの考えを書こうとしている。 ・　自分の納得できる考えを意識してまとめようとしている。
見通す		・　これからもっと考えてみたいな。 ・　もっと○○な自分でありたいな。 ・　自分の生活に生かしてみたいな。	【自→自】補助資料 【自→自】知識や経験とその内面の振り返り 【自→自】【他→自】構造化された板書の内容 【自→自】【自→他】【他→自】自分の考えの根拠となるもの 友達の考えの根拠となったもの 自分と友達の考えの異同	受容感 有用感 効力感 切実感 有能感	・　これまでの自分の生き方を見つめて，これからの自分の生き方を考えさせる。 （自己評価活動） ・　補助資料（自記・心のノートなど）を提示し，実践意欲を高めさせる。	・　発表しようとしている。 ・　具体的な生活の場面での自分の姿を考えることができている。 ・　学んだことと自分の考えのつながりを意識して発表しようとしている。 ・　友達の顔を見ながら発表を聞いている。 ・　友達の発表を聞きながら聞いている。 ・　自分の考えを友達に伝えようとしている。

そして私たちは，子どもたちが学びのよさを実感する場面は，資料を通した話し合い活動に多く見られることから，話し合い活動への教師の具体的な働きかけ等を指導方法設定の重点とした。

授業において子どもたちは，自分の道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりするために，資料中の主人公の弱さや迷い，それらを乗り越える意義・心構えに共感したり疑問をもったりする。そこで教師は，子どもの意識を大切にするために指導方法を工夫していく。私たちは，ねらいとする内容をしっかりと踏まえ，子どもたちが学びのよさを実感しながら学習内容を学び取ることができるようにするために，発達特性も踏まえて実践を通して以下のような指導方法を設定した。

低学年	○　一人一人に，主人公の生き方の中で，重点的に考えたい場面を選択させ，短冊カードに気持ちや理由などを書き込ませ，教室前面の黒板へ掲示していく。 ○　短冊カードを教師が紹介し，気付いたことや感想，質問などを全体で話し合うことで，見方・考え方・感じ方を深めたり，広げたりしていく。	
中学年	○　主人公の生き方の中で，重点的に考えたい場面を選択し，場面ごとに短冊カードを掲示する小黒板を用意し，グループで話し合う活動を設定する。 ○　グループの話し合いを大切にしながら，教師は積極的に問いかけたり問い返したりし，子どもたちの見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりしていく。	
高学年	○　中学年同様，重点的に考えたい場面ごとに，グループで話し合う活動を設定する。 ○　子どもたち同士が，観点（対自，対他，対集団・社会）を基に話し合い，比べたり関係付けたりしながら，見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりしていく。	

また，先に述べたように，学びは子どもたちのものであることから，子どもたちに自分たちの学びに対する自己評価と相互評価を充実させていくことも大切だと考えている。

私たちは，以下のように自己評価，相互評価の視点を設定した。そして，発達特性に応じて子どもたちにも示して，評価できるようにしていきたいと考えた。

【表４　自己評価・相互評価を充実させるための具体的視点】

具体的視点の内容
○　見方・考え方・感じ方の共通点や差異点を明らかにできる。 ○　自分の見方・考え方・感じ方の深まりや広がりを，生き方と関係付けて説明できる。 ○　自分と自分以外の見方・考え方・感じ方によさを見つけることができる。 ○　自分の学びを振り返り，見方・考え方・感じ方の深まりや広がりの過程をたどることができる。

【子どもの自己評価の例】

このように，**見方・考え方・感じ方の深まりや広がりがどんな学びをしたから得られたのかを振り返ることで，子どもたちは，意欲的によりよい生き方とは何かを学び続けることができる**ことになる。さらに，そのような学びのよさを感じることで，これからの生き方をよりよいものにしていこうとする意欲が高まることになる。このような活動を繰り返していくことにより，よりよく生きる意欲はさらに高まっていくと考える。

Ⅲ　授業プラン例

第４学年「郷土愛」４－(5)　主題名「ふるさとのために」　資料名「駅を守るおじいさん」（学研）

1　ねらい

ア　「郷土愛」にかかわる自分自身の生き方を見つめ，自分自身のもつ心の葛藤を乗り越えて，ふるさとのものに親しみ，積極的にかかわろうとする気持ちを高めることができる。

イ　「郷土愛」にかかわる見方・考え方・感じ方を，自らの体験場面での内面と関係付けながら考えることができる。

ウ　無関心や怠惰な感情，外への欲求などの心の弱さから，ふるさとのものを大切にできないことがあることに気付くとともに，ふるさとのものを大切にするための意義・心構えの大切さを理解することができる。

2　学習内容の設定

【これまでの実践における子どもたちの状況】

◎　「郷土愛」にかかわる知識・理解も十分もっておらず，実際の生活とのかかわりもあまりないところで認識している。

◎　「見つめ方・問いかけ方」がよりよく発揮されていない。

・　自己の内面はよく見つめているが，友達や周りの人の考えを意識した広がりのある「見つめ方・問いかけ方」を行ってはいない。

《「郷土愛」にかかわる基本的な学習内容》

対象		① 鹿児島で続けられている祭りや行事
		② 鹿児島の特産品
		③ 鹿児島に古くからある伝統的な工芸品
感じ方の傾向		① これからも続けたり，残したりしたいと思う。
		② これまで続けられたり，残されていたりしていることがすごいと思う。
		③ 自分の住んでいる地域や鹿児島のよいところがわかる。
弱さ		① 興味を感じていなかったとき
		② めんどうなとき
		③ 外にしたいことがあったとき
意義・心構え	強く感じるもの	① 積極的に参加したり，協力したりする。
		② これからも大切に続けたり，残したりしたい。
		③ 文化や伝統的なものに興味をもち，よさについて考える。
	意識されていないもの	① 参加したり，協力したりした後の気持ちを考える。
		② 守ったり，続けてきたりした人の気持ちを考える。
		③ これまで続けられてきたり，残されてきたりした理由を考える

《培う力との関連性を踏まえた学習内容》

○　ふるさとのものへの見方などを，自分の生活とのかかわりや友達の意見との比較の中で深めたり広げたりすることができる学習内容

・　事前カードによって振り返る。
・　学び合いを通して追究する。
・　学んだことを実際の生活とのかかわりの中でとらえる。

【学習内容見直しの視点となる感覚】

《必要感》

・　ふるさとのものに対してあまり意識して生活していない自分に気付くことで，ふるさとのものへのかかわり方について，もっと考えて生活することを大切にしたいという感覚

《有用感》

・　資料や友達とのかかわりを通して，ふるさとのものを大切にすることにかかわる意義や心構え，心の弱さについて，これまで感じていなかったものに気付いたり，自分のこれからの生活の中で生かせることに気付いたりする感覚

3　指導方法の設定

(1)　視点と具体的な方策

学習過程

・　**必要感**を感じて設定した自分なりの問題を，**受容感**や**効力感**をもって考えさせ，自分の学んだことに**有用感**を感じることができるようにする。

その際，柔軟な指導過程を考え，「さぐる」過程に重点をおいた構成になるようにする。

学習活動

・　友達との話し合いを通して，「郷土愛」にかかわる自分の見方などを深めたり広げたりさせる。

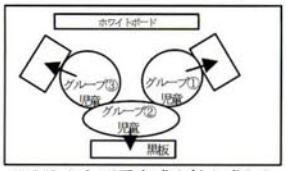
その際に，友達とともに話し合う活動を重視し，**受容感**や**効力感**をともなった自分なりの考えをまとめていけるようにする。

学習形態

・　**必要感**や**有用感**を十分に感じさせるために，個人で考えることに重点をおいた形態と，**受容感**や**効力感**を感じさせる。

その際に，友達同士での話し合いに重点をおいた形態を，意図的に設定する。

場の設定



・　子どもたちが**受容感**や**効力感**をもって話し合うことのできる場を設定する。

具体的な働きかけ

・　友達との話し合いを通して，ふるさとのものへの見方などが深まったり広がったりし，学んだことへの**有用感**が感じられるようにする。

その際に，話し合いの時間を十分に確保し，見取りを基に，問い返しや問いかけ，方向付けをするなど，積極的にかかわっていくようにする。

子どもの見取り

・　**必要感**をもって設定した自分なりの問題を考えていく中で，**受容感**や**効力感**を感じさせ，自分の学んだことに**有用感**を感じさせる。

その際に，想定した子どもの姿と照らし合わせ，その姿を共感的に見取り，姿に応じて期待をもってかかわるようにする。

(2)　資料について

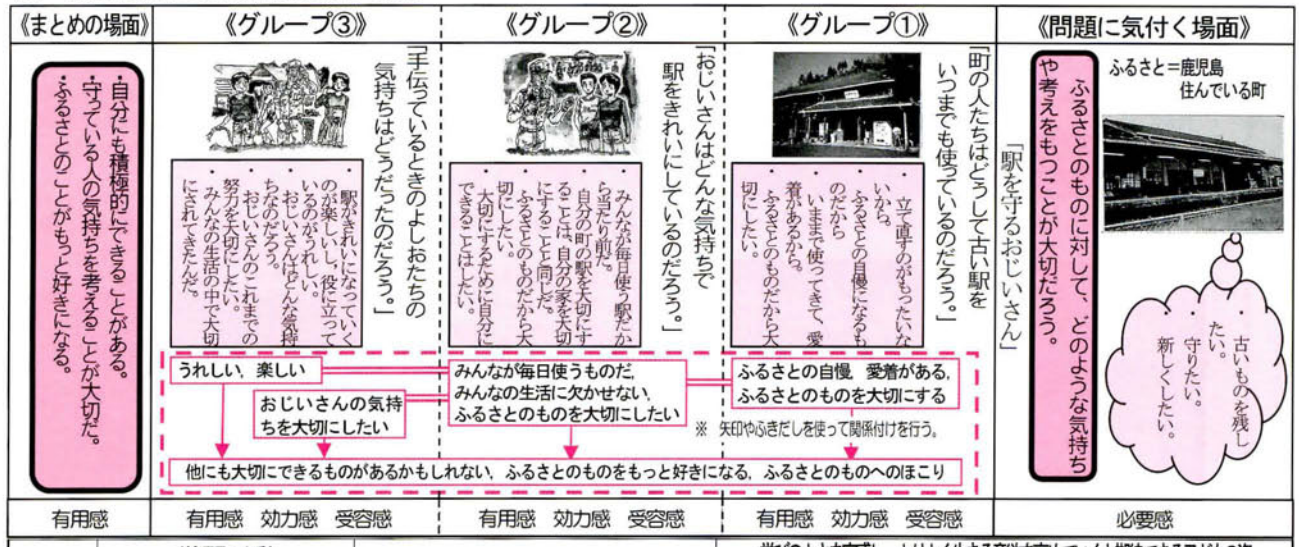
資料のあらすじ

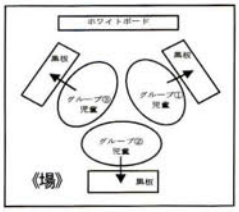
鹿児島県横川町で，建造後100年以上が経った現在も使われている大隅横川駅について，自主的に駅の環境整備をおこなっているおじいさんとのかかわりを通して，主人公のよしおが，ふるさとのものを大切にすることについて考えるという資料である。

資料のもつ価値

・　駅を守ることがふるさとのものを大切にする，愛するということではなく，おじいさんがこれまでの生活の中でふるさとに感じるようになった愛着やほこりといったものが，駅を守るという行為の中に発露されていることということを踏まえる。

(3) 要件を基にした指導方法の構想

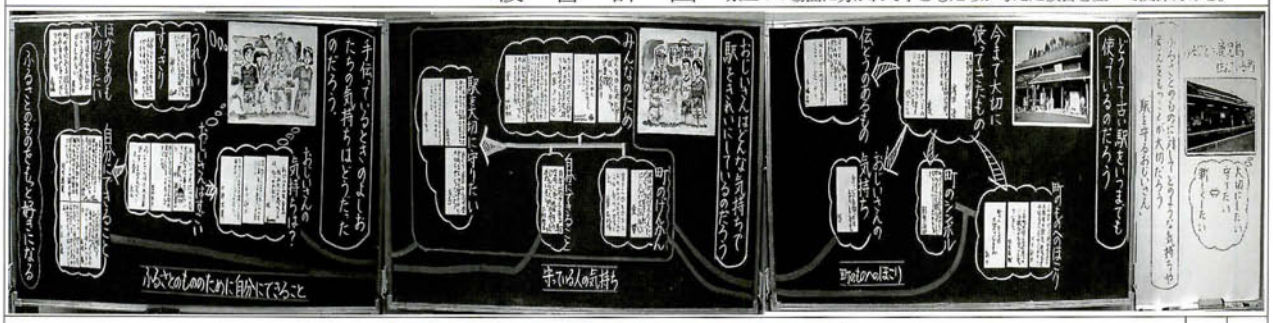


過程	学習活動	教師の働きかけ	学びのよさを実感し，よりよく生きる意欲を高めていくと期待できる子どもの姿 （●…内容と深くかかわる姿，▼…学び方に深くかかわる姿） （太字は自己評価・相互評価にかかわる部分）
気づく	・事前カードを基に，「郷土愛」にかかわる自分が感じている価値を振り返る。 ・これまでの経験とそのときの心情の矛盾から自分なりに必要感の感じられる学習問題を設定する。	・前もって把握しておいた事前カードの内容を基に意図的指名を行う。 ・発表の根拠になったことについて問い返したり，そのことについて他の子どもに切り返したりする。 ・経験やそのときの心情を振り返らせる。 ・「郷土愛」にかかわる今の自分の感じ方を意識させるようにする。	【自分の中での深まりや広がり】（効力感，必要感） ●事前カードの内容を見ながら考えている。●事前カードに内容と関係する写真や記事などを貼り付けている。**●自分の経験やそのときの心情とこうありたいと願う自分との矛盾から学習問題を考えている。**▼事前カードの内容を基に学習問題を設定している。**▼自分の学習問題について根拠を明確に説明している。** など 【友達等とのかかわりの中での深まりや広がり】（受容感，必要感） ●友達の事前カードを見たり，見せ合ったりしている。●友達の発表をうなづきながら聞いている。**▼自分と友達との考えの比較から学習問題を考えている。** など
さぐる	・資料「駅を守るおじいさん」を読んで，よしおの言動や心情，よしおの心情の変化について感想をもつ。 ・自分なりの学習問題をふまえて，自分の考えていきたい場面を選択する。 ・よしおの心の弱さや迷い，おじいさんの手伝いをしている場面での心の背景や気付いた意義・心構えについて話し合う。 ・友達との話し合いを通して，ふるさとのものに対する自分の見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりする。 ・自分の考えの根拠となるものへの振り返り ・自分の考えと友達の意見との比較 ・自分の考えと友達の意見との関係付け  	・資料一読後の感想や自分なりの学習問題をふまえて，自分の考えていきたい場面を選択させる。 ・同じ考えをもっているもの同士に，その根拠となったものについて話し合わせる。 ・似ている考えや対立する意見について，なぜ似ているのか，なぜ対立しているのか考えさせる。 ・発表した子どもに対して，考えの根拠を明確にさせるような問い返しを行う。 **【ねらいへとつながる考えを引き出すために】** **・発表に対する子どもたちの表情に留意し，班の話し合いの内容を深めたり広げたりするきっかけをつくる。** **・発表者A→発表者B→発表者Aの流れを大切し，互いに受容感や効力感を感じながら話合いを行うことができるようにかかわる。** **・一つの意見をグループ全体に広げ，その背景となった気持ちについて問い返し，様々な考えを引き出すようにする。** **・もし自分が登場人物の立場ならどうか考えさせたり，そう考える根拠について問い返したりする。** ・子どもたちが板書したものを並べて，比較や関係付けを意識的に行うように促すようにする。 ・子どもたちの発表内容を比較させたり，関係付けたりしながら，板書を構造化し，「郷土愛」の意義や心構えに対する気付きを促すようにする。	【自分の中での深まりや広がり】（効力感，有用感） ●事前カードの内容を振り返っている。●似たような経験を振り返って考えようとしている。●自分が主人公と同じ立場ならどのように考えるか想定しながら自分の考えをまとめている。●もししなかったらどうなるかと反証的に考えようとしている。●自分の考えを具体的な形（行為）で表そうとしている。●自分の感じた価値や心構えをどのような場面で生かせそうか発表しようとしている。**●これまで感じていなかった意義や心構えについて発表している。** **●これからの自分のありたい姿について説明している。**▼自分の学習問題を解決することができる追究場面を選んでいる。▼積極的に自分の意見を発表しようとしている。**▼自分の考えの根拠を明確にして発表しようとしている。▼自分の意見を修正したり，変更したりした根拠を明確に説明しようとしている。▼自分の納得できない根拠を明確にして質問している。**▼自分なりの学習問題を意識してまとめようとしている。 など 【友達等とのかかわりの中での深まりや広がり】（受容感，効力感，有用感） **●友達と事前カードの内容を見せ合っている。**●友達の発表をくいいるように見ている。●友達の発表をうなづきながら聞いている。●自分が納得できる考えに賛同している。●友達の考えに納得できないような表情をしている。▼自分の考えを友達にわかりやすく説明しようとしている。▼友達の発表をメモしている。**▼自分の考えと友達の考えを比較しようとしている。▼友達の意見などを自分なりに分類しながら考えようとしている。**▼友達の発表に対して質問をしている。▼同じ考えをもっている友達に対して根拠を質問している。**▼友達の意見について自分が納得できる根拠を明確にしている。▼自分の考えについて友達に意見を求めている。▼自分と友達の意見との違いにこだわって考えようとしている。▼友達の意見を聞いて，自分の意見を修正したり，変更したりしている。**▼別の班の話合いを聞き，自分の考えをまとめようとしている。▼似ている考え同士をつなげようとしている。▼友達と話合いながら黒板に貼られた内容を構造的にまとめようとしている。**▼選択した場面グループでの話合いの内容と他のグループで話し合われた内容とを比較したり，関係付けて考えたりしようとしている。▼自分と友達の考えの違いの原因について説明しようとしている。** など
見つける 深める 見通す	・よしおの生き方を振り返り，自分の考えと友達の考えを見比べて，感じたことや考えたことを発表し合う。 ・学習したことを振り返り，ふるさとのものに対してどんな気持ちや考えをもつことが大切か，自分なりの考えをまとめる。 ・「郷土愛」にかかわる写真を見る。	・事前カードや学習の振り返りを通して，自分なりの考えをまとめ，発表させる。 ・自分がどのような学び方をし，どのようなことを学んだのかを意識させるようにする。 ・子どもたちが学んだことを称賛するとともに，学び方についても称賛するようにする。 ・自分の考えの根拠となったものを明確に意識させるようにする。 ・自分のこれからの姿について，より具体的な生活の場面をイメージさせるようにする。 ・子どもたちの表情を見取り，その表情に何らかの反応を返してあげるようにする。	【自分の中での深まりや広がり】（効力感，有用感） **●考えが授業前とどのように変わったか，根拠を明確にしながら発表している。●生活場面を具体的にイメージして，自分が今後どのように接したいか説明している。●自分や友達の考えのよさについて根拠を明確にして説明している。▼授業のどこを振り返ったのかなど，自分の振り返ったものを明確にしながら自分の考えを述べようとしている。▼納得できた考えについて，根拠を明確にして説明している。** など 【友達等とのかかわりの中での深まりや広がり】（受容感，効力感，有用感） ●写真に対して感嘆の声をあげる。●写真を食い入るように見つめている。 ●写真について友達に何かを説明している。**▼自分の考えたことや友達の考えを事前カードに書き加えている。▼友達の意見との比較を通して，自分なりの考えを発表している。** など

4　授業の実際

過程	主な学習活動	学びのよさを実感し，よりよく生きる意欲を高めていくと期待できる子どもの姿	教師の具体的な働きかけ
気付く	1　事前アンケートにおいて自分の強く感じている見方・考え方・感じ方を基に，ふるさとのものについて考えていきたい問題に気づく。 ふるさとのものに対して，どんな気持ちや考えを持つことが大切だろう。	・　事前カードの内容について詳しく触れながら説明している。 ・　自分なりの学習問題を立てている。 ・　自分の立てた学習問題の根拠となったことを説明している。	・　事前カードに書いている内容と，実際に大切に守られているふるさとのものを示されたときの心情との矛盾から，自分なりの問題を設定させる。
さぐる	2　資料「駅を守るおじいさん」を読んで，「郷土愛」にかかわる生き方について話し合う。 【心の葛藤】 【心の弱さ】 ・　あまり興味がない（無関心） ↓ ・　めんどうだ（怠惰な感情） ↓ ・　外にしたいことがある。（外への欲求） 【おじいさんの手伝いをしているときのよしおの気持ち】 ◎　ぼくも駅のためになることができてうれしい。 ◎　駅のように大切にしたいふるさとのものが他にもあるかもしれない。 ◎　駅のことがもっと好きになった。	・　よしおの立場になって考え，発表している。 ・　同じような気持ちになった経験を基にして発表している。 ・　よしおが大切にした気持ちや考えを，根拠をもってワークシートに書いたり，発表したりしている。 ・　友達の意見を，頷いたり，疑問を感じたりしながら聞いている。 ・　たくさんの意見の異なる友達と対話活動を行っている。	・　事前カードの内容をふまえて，設定した自分の問題をどの場面を通して考えていきたいか選択させる。 ・　ふるさとのものを大切にしたいという考えが，どのような思いの基に出てくるのか考えさせる。 ○　自分の経験とそのときの心情の想起から ○　よしおの心情や心情の変化を通して ○　自分の考えと友達の意見との比較や関係付けを通して
見つける	【意義】　ふるさとのもののよさがわかる→誇りに感じる→受け継いだ人たちもうれしい→大切にしていこうとする気持ちが高まる→ふるさとのものをもっと好きになる。 【心構え】　積極的に参加する，受け継ぎ守ってきた人の気持ちを考える，自分たちの生活の中で受け継がれ残ってきた意味や理由を考える，自分にとってのよさを考える，自分にできることを考える　など	・　友達の意見について，自分が納得できるものを発表している。 ・　友達の意見と自分の意見を比べて，似ているところや異なるところを発表している。	・　それぞれの班で話し合われたことを基に関係付けを行い，ふるさとのものを大切に守ってきた人の気持ちを考えることやふるさとのものにほこりをもつことが，ふるさとをもっと好きになることにつながることに気付かせる。
深める	3　学習したことを振り返り，ふるさとのものに対して，どんな気持ちや考えをもつことが大切か，自分なりの考えをまとめる。	・　学習問題に対する自分なりのまとめをしている。 ・　学習を通して考えてきたことを基にまとめをしている。 ・　具体的な生活の場面を想定して考え，書いたり発表したりしている。	・　事前カードの内容や学習を振り替えらせ，自分がどのような学びをし，どのような考えになったかを考えさせる。 ・　実際の生活の場面で，ふるさとのものにどのように接していきたいと考えるようになったかを考えさせる。
見通す	4　「郷土愛」にかかわる写真を見る。	・　それぞれの写真を食い入るように見つめている。	・　ふるさとのものを写した写真をスライドにして見せる。

板　書　計　画　※三つの場面に分かれて子どもたちが考えた板書を並べて関係付ける。



教師の働きかけ	資料など
基本発問○　中心発問◎　補助発問□ ○　みんなはふるさとのものについて，どんな気持ちをもっているかな。 ○　では，この写真（大隅横川駅の写真）を見てください。みんなの住んでいる町にこんな駅があったらどう思う。 ○　実はこの駅は大隅横川駅といって今でも使われている駅なんです。 ○　それでは今の気持ちと事前カードの内容を基にして，自分なりの考えていきたい問題をノートに書いてみてください。 《資料一読後，感想の発表と追究場面の焦点化》 ○　それでは，自分が考えていきたい場面に分かれて，友達と一緒に考えていきましょう。 □　話し合うことは何か確認しましたか。 □　話し合いの進め方は確認しましたか。	事前カード 大隅横川駅の写真
【話し合いの場面でのかかわりの例】 ・　○○くんと○○さんは同じ考えだけど，○○くんはなぜそう考えたのかな。 □　○○さんは○○くんの理由を聞いてどう思うかな。 □　○○くんは○○さんの意見を聞いてどう思うかな。 □　○○さんと○○さんの意見はまったく逆だね。お互いに相手の考えを見てどう思うかな。 □　○○さんはよしおくんと同じような気持ちになったことはないかな。 □　○○くんは友達の意見でなるほどなと思った意見はあるかな。 □　どうしてそう考えてのかな。 □　○○くんは何か納得できないものがありそうだね。納得できない理由をみんなに話してみてごらん。 □　○○さんはさっきからうなづきながら聞いているけど，どんなところになるほどと感じているのかな。	事前カード 道徳ノート 一枚絵 話し合いの進め方確認シート 小黒板 ホワイトボードシート ホワイトボード用ペン 道徳ノート
◎　それぞれの班で話し合ったことを並べて見比べてみよう。駅に対するよしおの気持ちについて，何か気付いたことがあるかな。 □　○○くんは①班の～という考えと③班の～という考えがつながると考えたんだね。 □　○○さんは○○くんの考えにうなづいているね。○○さんは他にも考えがあるんじゃないのかな。 ○　今日の学習を振り返って，自分なりのまとめをしてみましょう。 □　（発表に対して）どうしてそのように考えたのかな。 □　友達の考えを聞いて，どのように感じましたか。 □　学習を通して，考え方が変わったなと感じている人はいますか。 ○　これからの生活の中でこのように生かしてみたいと感じた人はいますか。 ○　それでは最後に，この写真を見てください。	道徳ノート 事前カード 郷土のものの写真

【子どもたちの話し合いの場面における指導例】

【グループ①】 どうして古い駅をいつまでも使っているのか考えたい。

・ もったいない。
・ 新しくしてもあまり意味がない。
・ **いままで使ってきたから愛着がある。**
・ ふるさとのものだから大切に残したい。

A　Cさんがいうように，今まで使ってきたものは，捨てようと思ってもなかなか捨てられなかったりするよね。
B　ぼくも経験があるよ。
A　でも，どうして愛着を感じるのかな。

◎　自分の考えの根拠を明確にしながら，話合いに積極的にかかわろうとする子ども。
◎　友だちの考えに積極的に質問をし，納得していこうとする子ども。

・ AくんやBくんは，これまでの経験からCさんの考えがよくわかるんだね。
・ Aくんは愛着が感じる原因は何か考えただね。それについて，Cさんはどう思うかな。

・ Cは自分の考えに対してABが共感してくれたことで，またAとBは同じ考えを共有できたことで，それぞれ**受容感**を感じることができる。
・ Aは愛着を感じる原因を考えたことに対して教師がかかわったことで，自分の学び方に**効力感**を感じることができる。

【グループ②】 おじいさんはどんな気持ちで駅をきれいにしているのか考えたい。

・ きたないのがきらい。
・ 自分たちの町の駅だから当たり前だ。
・ **みんなのものだから大切にしたい。**
・ ふるさとのものだから大切にしたい。

D　町の人たちにも呼びかけたら良かったのに。
E　ぼくも，そう思うな。町の人たちはおじいさんを見てどう思っていたのかな。
F　おじいさんと町の人たちとでは，駅に対する気持ちが違ったのかもしれないね。

◎　他の友だちの話合いに興味をもち，自分も積極的にかかわっていこうとする子ども。
◎　他の友だちの話合いを静観しつつ，自分なりに考えを深め，納得していこうとする子ども。

・ 駅に対する気持ちの違いについては，いろいろ考えられそうだね。他の人にも考えを聞いてみたらどうかな。
・ 他にでている考えと関係はないかな。

・ DEFは他の疑問を考え出せたことで，自分たちの学び方に**効力感**を感じることができる。
・ 教師がDEFの考えのよさを認めてあげることで，DEFは自分たちが学んだことに**有用感**を感じることができる。
・ 教師が，他の考え方への問い返し発問をし，グループ全体の学び合いを活性化することで，グループ全体が学び方への**効力感**を感じることができる。

【グループ③】 手伝っているときのよしおたちの気持ちについて考えたい。

・ 自分もみんなの役に立っているのがうれしい。
・ 駅がだんだんきれいになっていくのが楽しい。
・ **おじいさんはどんな気持ちで駅をきれいにしているのだろう。**

G　おじいさんもよしおたちと同じ気持ちなんじゃないのかな。
H　そうかなあ。私は何か違うように感じる。
I　（2人の話合いをじっと聞いている。）
J　（隣の班の話合いをちらちら見ている。）

◎　発表されている内容同士を囲んだりしながら結びつけて考えようとする子ども。
◎　自分の考えと他の班が話し合っている内容とのかかわりを感じて聞きに行く子ども。

・ Hさんはおじいさんとよしおたちとでは，何か気持ちが違うように感じているんだね。Iさんも何か考えがありそうだね。
・ Jさん，隣の話合いに何かヒントがありそうかな。見てきてもいいよ。

・ GとHは互いに考えの違いを話し合うことで，自分の学び方への**効力感**や自分の学んだことへの**有用感**を感じることができる。
・ Iの学び方を認めつつ，発表へと誘うことで，Iは自分の学び方への**効力感**や他からの**受容感**を感じることができる。
・ Jの学び方を認めることで，Jは自分の学び方の**効力感**や学んだことへの**有用感**を感じることができる。

お互いに追究したことを通して気付いたことはないかな。

・ ふるさとのものだから。
↓
・ 愛着がある。
・ ふるさとの自慢だ。
・ みんなのためになるものだから。

・ どんな気持ちなのかな。

・ 守ってきた人の気持ちがわかるから。

・ 背景にはどんな気持ちがあるのかな。

ふるさとのものを大切にしたい

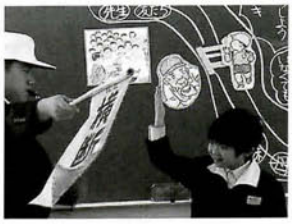
・ こんな気持ちを大切にすると，ふるさとのものに対して，どのように接することができそうかな。

・ ふるさとのものを大切にすることにほこりを感じる。
↕
・ ふるさとのことをもっと好きになる。
↕
・ 大切にできるふるさとのものが他にもあるかもしれない。

Ⅳ　研究の成果と課題

これまで「よりよい生き方を学び続ける道徳授業の創造」の研究主題の下，2年次サブテーマ「見方・考え方・感じ方の深まりや広がりを実感する学習内容の設定」，3年次サブテーマ「学びのよさを実感し，よりよく生きる意欲を高める学習指導」を設定し，実践を通して研究を進めてきた。その結果，次のような成果と課題が明らかになった。

1　研究の成果



○　1年次，内容項目「尊敬･感謝」の授業実践を基に，「よりよい生き方を目指す意欲･態度」が発揮される様子から，「自己の見つめ方，自己への問いかけ方」のかかわり，「生き方を支える知識･理解」のかかわりを探り，よりよい生き方を学び続ける子どもの姿を設定することができた。目指す子どもの姿が表れるような授業を実践することにより，子どもたちは，道徳の時間に学ぶことを，自分とのかかわりとしてとらえ，自他共によりよい生き方を学び続ける姿が見られた。

○　2年次，内容項目「自然愛，動植物愛護」「誠実･明朗」の授業実践を基に，培う力との関連性を踏まえた学習内容として以下のようなものを設定することができた。

・自分なりの問題を基に，追究し続けることができる学習内容
・見方・考え方・感じ方の根拠を考える学習内容
・具体的な形（行為）に表す学習内容
・同内容項目における前授業とのつながりを実感することができる学習内容
・自分の変容を意識できる学習内容

これらの学習内容を基に授業を実践することで，子どもたちは，道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方の深まりや広がりを実感することができるようになった。

○　3年次，学びのよさを実感し，よりよく意欲を高めるための学習指導の具体化に取り組み，学習内容の見直しや指導方法の要件を設定し，指導方法の工夫・改善を行い，授業プランを作成することができた。研究を具体化する授業実践を行う中で子どもたちが，学びのよさを実感し，よりよく生きる意欲を高めながらよりよい生き方を学び続けることへ意欲的に取り組むようになった。

2　研究の課題

○　これまで研究してきた内容の妥当性をさらに実践，検証していくとともに，新学習指導要領に示された内容と関連を図りながら，授業を具体化していく必要がある。

○　子どもたちが意欲的に学び続けられるように，同テーマによる複数時間の取り扱いの授業などさらに授業改善をしていく必要がある。

○　体験における子どもたちの意識の連続性や地域，家庭との連携を踏まえて指導計画を見直し，授業プランとして充実させていく必要がある。

《参考文献》

○　文部省　「小学校指導要領解説　道徳編」　（大蔵省印刷局　平成11年）
○　青木孝頼・金井　肇・佐藤年夫・村上敏治編　「新道徳教育事典」　（第一法規　1980年）
○　押谷由夫著　「道徳教育新時代」　（国土社　1994年）
○　石川但男・荻原　隆共著「感性豊かな子どもを育てる道徳教育の創造」（文教書院　1997年）